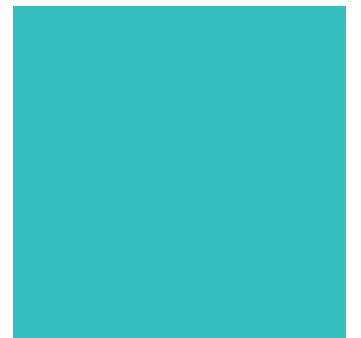


BUSINESS REPORT

第**97**期 報告書

2019年4月1日 ▶ 2020年3月31日



いつも となりに
おいしいキョクヨー





代表取締役会長
今井 賢司

代表取締役社長
井上 誠

企業理念

人間尊重を経営の基本に、健康で心豊かな生活と食文化に貢献し社会とともに成長することを目指します。

ご挨拶

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第97期(2020年3月期)報告書をお届けいたします。

この一年、キョクヨーグループはESG重視の経営を基盤として、食品事業、海外事業の拡大と商品開発、資源アクセスの強化を図り、事業構造、資本政策の均衡に取り組み、中期経営計画「Change Kyokuyo 2021」の最終年度に向けた施策を実施してまいりました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、社会状況、及び事業環境はこれまでとは大きく変化してきております。

当社グループは「魚を中心とした総合食品会社として、高収益構造への転換をはかり、資源、環境、労働などの社会的要請を踏まえ、事業のウイングの拡大と時間価値の提供により企業価値の向上を目指す」という基本方針のもと、高収益構造へ転換するとともに、一丸となってこの厳しい環境に立ち向かい、社会的責任としての食品の安定供給を続けていく所存であります。

株主の皆様におかれましては、引き続き多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2020年6月

中期経営計画「Change Kyokuyo 2021」の進捗状況と目標達成に向けて

■ 当期(2020年3月期)の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、当初緩やかな景気回復の動きがみられたものの、貿易摩擦、原油価格や為替相場の動向に加え、新型コロナウイルス感染拡大に伴う世界的混乱状態により、先行き不透明な状況となりました。

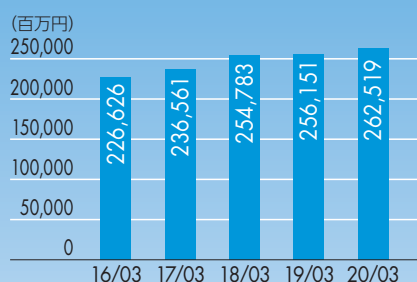
水産・食品業界におきましては、人手不足による労働コ

スト・物流コストの上昇に加え、世界的な水産物需要の増大による買付コストの上昇など、厳しい状況が続きました。

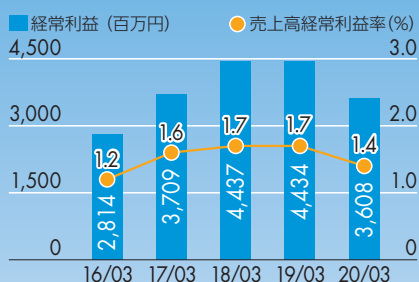
このような状況のもとで、中期経営計画『Change Kyokuyo 2021』(2018年度～2020年度)の2年目として、『魚を中心とした総合食品会社として、高収益構造への転換をはかり、資源、環境、労働などの社会的要請を

主な連結財務指標

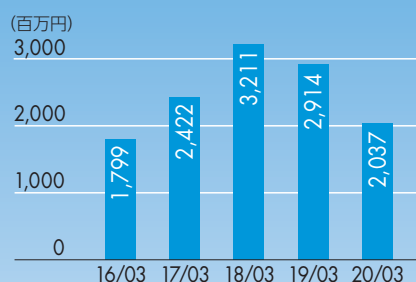
売上高



経常利益/売上高経常利益率



親会社株主に帰属する当期純利益



踏まえ、事業のウイングの拡大と時間価値の提供により企業価値の向上を目指す』という基本方針のもと、『ESG重視の事業活動』を通じて『拡大』『強化』『均衡』の各戦略を進め、高収益構造へ大きく転換していくことを目指し、取り組んでまいりました。

その結果、当社グループの売上高は2,625億19百万円(前期比2.5%増)、営業利益は29億18百万円(前期比23.8%減)、経常利益は36億8百万円(前期比18.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益20億37百万円(前期比30.1%減)となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりです。

水産商事において、エビ・北洋魚などの取扱いが伸長したほか、イワシ・ホタテなどの輸出や、米国子会社による北米販売が堅調に推移しました。一方、利益面では紅鮭・チリ銀鮭の市況下落により、鮭鱒で損失計上を余儀なくされました。この結果、売上は前期を上回りましたが、利益は前期を下回りました。

冷凍食品セグメントにおいて、水産冷凍食品事業では寿司種を中心とした生食用商品や、切身・煮魚・焼魚などの加熱用商品の拡販に努めました。調理冷凍食品事業ではカニ風味かまぼこやエビフライなどの水産フライが伸

長し、家庭用冷凍食品事業では米飯類や煮魚などアイテムの多様化に努めました。この結果、売上・利益とも前期を上回りました。

常温食品セグメントでは、缶詰は、イワシ缶・サンマ缶・カツオ缶の販売が伸長し、また珍味製品も堅調に推移しました。利益面では原料価格高騰が続くなか、価格改定や規格変更、新製品投入などにより利益率の改善を進めました。この結果、売上・利益とも前期を上回りました。

物流サービスセグメントでは、前期10月に行った大阪事業所の売却により、売上は前期を下回りましたが、在庫貨物の確保を図り、配送事業の強化に努めた結果、利益は前期を上回りました。

鯉・鮪セグメントでは、加工及び販売事業では、本マグロ原料や、カツオ、マグロの加工品の販売が伸長し、養殖事業では出荷魚の大型化を進めたことで、販売が伸長しました。一方、海外まき網事業では、水揚げ数量、魚価が前期を下回り、経費削減に努めたものの、収支が悪化しました。この結果、売上は前期を上回りましたが、利益は前期を下回りました。

次期(2021年3月期)の計画目標

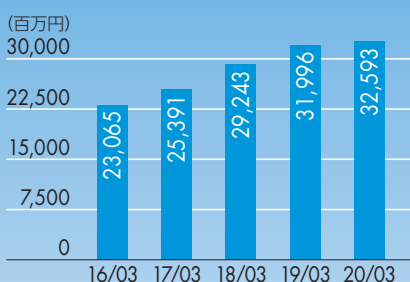
次期におけるわが国経済は新型コロナウイルス感染症の影響から、景気の更なる下振れリスクが懸念され、水産・食品業界にとっても厳しい環境が予想されます。

当社グループは中期経営計画『Change Kyokuyo 2021』の最終年度を迎え、主要施策についてスピード感を持って進めてまいりますが、新型コロナウイルス感染症の影響による国内外の景気減速感を踏まえ、当初公表した中期経営計画における最終年度の数値目標達成は現時点では難しいと判断しております。

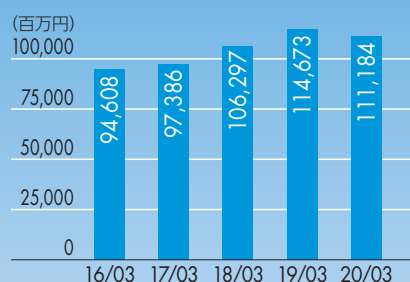
従いまして、次期の業績予想につきましては、これまでに顕在化している業績への影響を考慮し、売上高2,700億円、営業利益42億円、経常利益45億円、親会社株主に帰属する当期純利益30億円を見込んでおります。

なお、この予想につきましては、現在の事業環境が概ね2020年6月頃まで続くことを前提としており、今後の推移等により予想の修正が見込まれる場合には、速やかにお知らせいたします。

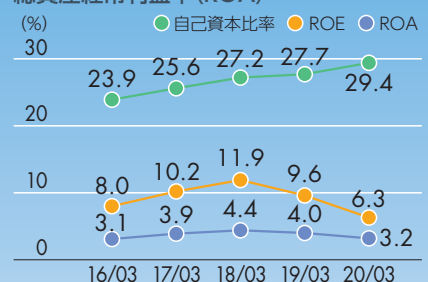
純資産



総資産



自己資本比率/自己資本利益率(ROE)/総資産経常利益率(ROA)



TOPICS

2019.4-2020.3

事業所内保育施設を開園

宮城県の極洋食品(株)塩釜工場に「キョクヨーハピネス保育園」を開園いたしました。

Kyokuyo Global Seafoods Co.,Ltd.を設立

順調に伸長している煮魚、焼き魚製品の新しい海外生産拠点として、タイ王国に新会社を設立いたしました。

(株)イチャママル長谷川水産が当社グループへ加入

ホタテ、イクラなどの水産物加工及び販売を行っている、同社の北海道産魚介類の仕入ネットワークや加工技術を活用し、より魅力的な商品を提供してまいります。

(有)クロシオ水産が当社グループへ加入

高知県宿毛湾でタイ、カンパチ、ヒラマサなどの養殖を行う同社が加わり、本鮪以外の新しい魚種の養殖にも積極的に取り組んでまいります。



CSR 環境保全・社会貢献活動

SeaBOSキーストーン・ダイアログに参加

当社は世界最大手の水産企業と科学者が海洋管理について話し合うイニシアチブ「海洋管理のための水産事業」(SeaBOS)に参加しています。

SeaBOSは持続可能な水産物の生産と健全な海洋の実現に向けて、科学的根拠に基づいた海洋管理に取り組み、SDGsの目標14「海洋と海洋資源の保全、及び持続可能な利用」への貢献を目指しています。

2019年9月、参加企業のCEOと科学者が話し合う第4回キーストーン・ダイアログがタイ王国プーケットで開催され、当社からは井上社長が出席しました。この会議では、IUU(違法・無報告・無規制)漁業の削減、強制労働の排除、水産物のト



Thai Union Group

レーサビリティの向上などに関する取り組みの更なる推進が合意されたほか、海洋プラスチック問題への対処や気候変動が水産業に与える影響に対するレジリエンスの必要性が確認されました。

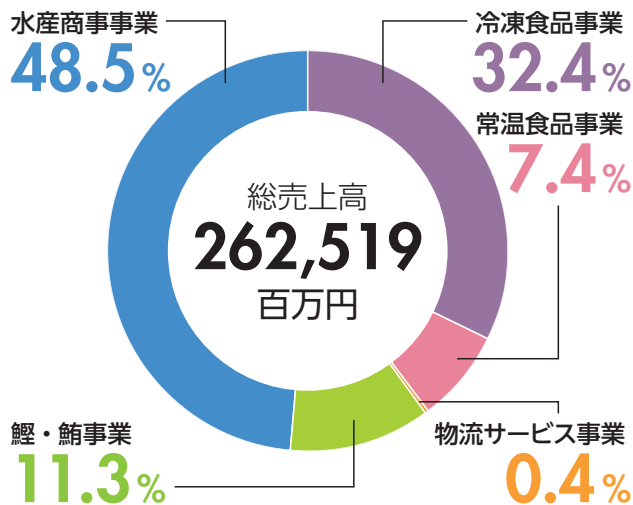
キョクヨーグループは、SeaBOSの取り組みを通して社会課題の解決に貢献してまいります。

CSR報告書2019発刊

キョクヨーグループでは、事業活動を通じて社会と食文化へ貢献し、社会課題の解決やSDGs達成への貢献に取り組んでいます。本報告書は、CSR(企業の社会的責任)に関する考え方や取り組みとその成果についてステークホルダーの皆様にはわかりやすくご報告するとともに、より良いコミュニケーションを築くことを目指しています。



セグメント別売上高構成比

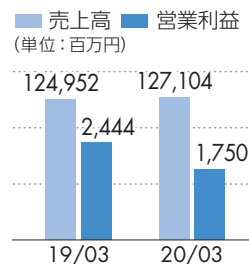


水産商事事業

- 売上高 127,104 百万円
- 営業利益 1,750 百万円

国内外の支社、営業所、駐在員事務所、関係会社の相互連携により、世界の海から質の高い水産物を安定的に調達するとともに、切身製品やカニ、エビの剥き身製品などを提供しています。

また、日本国内で漁獲された魚類の輸出や三国間貿易を積極的に行い、水産物の有効利用と資源循環型社会の実現に努めると同時に、魚食のグローバル化へも対応しています。



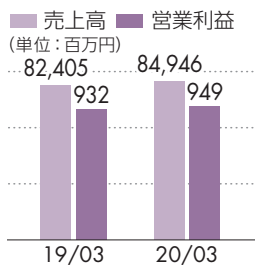
サバ切身

冷凍食品事業

- 売上高 84,946 百万円
- 営業利益 949 百万円

寿司種を中心とした生食用商品を外食チェーンなどへ販売しているほか、業務用加工品「だんどり上手」シリーズなどの加熱用商品を高齢者施設や宅配向けに販売しています。

また、水産フライ類やカニ風味かまぼこをはじめ、畜肉製品や冷凍野菜などを外食ルートや量販店惣菜売場向けに販売しています。家庭用冷凍食品は首都圏を中心に大手量販店などでの販売が拡大しています。



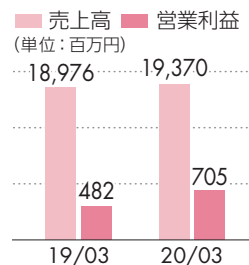
だんどり上手 秋鮭塩焼き(骨なし)

常温食品事業

- 売上高 19,370 百万円
- 営業利益 705 百万円

1949年の缶詰製造から始まった長い歴史を持つ事業です。現在ではサバ、カツオ、イワシなどの魚介缶詰のほか、畜肉缶詰なども取りそろえ、「シーマルシェ」ブランドの商品もラインアップして製品力の強化を図っています。また、あたりめ、さきイカなどの珍味類のほか、グルコサミンやDHAなどの健康食品も販売しています。

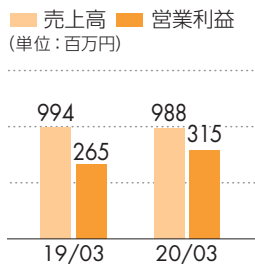
(右) 紅鮭水煮 アメリカ(アラスカ)産
(左) DHA・EPAプラス クリルオイル



物流サービス事業

- 売上高 988 百万円
- 営業利益 315 百万円

冷蔵倉庫事業を中心に東京の大井及び城南島、福岡の3事業所体制でロジスティクス・サービスを提供しております。

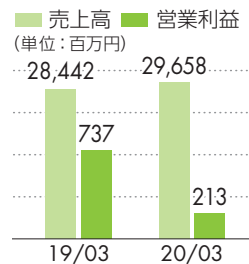


キョクヨー秋津冷蔵(株) 東京事業所

鯉・鮪事業

- 売上高 29,658 百万円
- 営業利益 213 百万円

カツオ、マグロの漁撈・養殖から買付・加工・販売までを一貫して手掛けています。カツオについては、当社グループ所有のまき網船「わかば丸」など独自の調達力があります。マグロについては、限りある水産資源の保護と安定的供給のために、四国で養殖事業を展開し、オリジナルブランド「本鮪の極」に加え、天然稚魚に頼らない完全養殖クロマグロ「本鮪の極 つなぐ<TUNAGU>」も国内外からご好評をいただいております。



本鮪の極 つなぐ<TUNAGU>

|| 会社概要 2020年3月31日現在

社名 株式会社 極洋
 英文社名 KYOKUYO CO., LTD.
 本社所在地 〒107-0052
 東京都港区赤坂三丁目3番5号
 設立 1937年9月3日
 資本金 56億6千4百万円
 主要な事業内容 水産物の輸出入・国内買付販売、
 加工食品及び冷凍食品の製造販売
 従業員数 2,307名(連結) / 664名(個別)
 連結対象会社数 26社

|| 役員の状況 2020年3月31日現在

役員
 代表取締役会長 今井 賢司 取締役 田中 豊
 代表取締役社長 井上 誠 取締役 西村 齊之
 専務取締役 酒井 健 取締役 三浦 理代
 専務取締役 芥川 淳 取締役 小畑 一雄
 常務取締役 松行 健一 常勤監査役 田村 雅治
 常務取締役 近藤 茂 常勤監査役 菅野 洋一
 取締役 松尾 達二 監査役 天利 均
 取締役 木山 修一 監査役 志村 和彦

|| 株主優待のご案内

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的として株主優待制度を実施しています。

株主優待の内容

対象株主 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された1単元(100株)以上所有の株主様
優待の内容 ●1単元(100株)以上3単元(300株)未満所有の株主様には2,500円相当の当社製品を贈呈
 ●3単元(300株)以上所有の株主様には6,000円相当の当社製品を贈呈
贈呈時期 毎年7月予定

|| 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 定時株主総会 毎年6月
 定時株主総会基準日 3月31日
 期末配当金基準日 3月31日
 公告方法 当社の公告方法は、電子公告としております。
 公告掲載URL : <https://www.kyokuyo.co.jp>
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、東京都内において発行される日本経済新聞に掲載する方法により行います。
 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電話: 0120-232-711 (フリーダイヤル)
 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(ご注意)

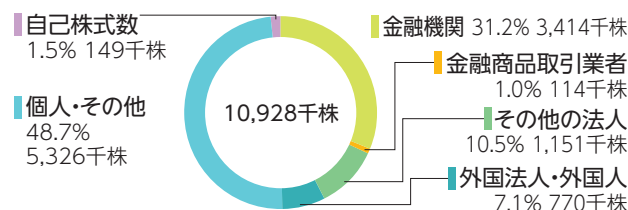
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

|| 株式の概況 2020年3月31日現在

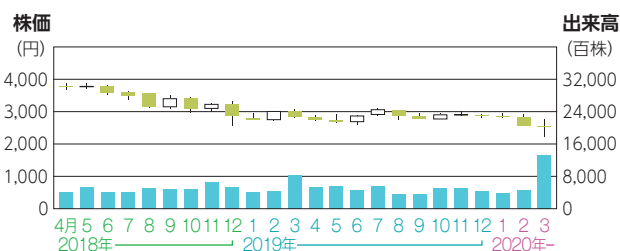
発行可能株式総数 43,700,000株
 発行済株式の総数 10,928,283株
 株主数 29,505名
 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	999	9.26
株式会社りそな銀行	523	4.85
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	458	4.25
農林中央金庫	445	4.12
東洋製糖グループホールディングス株式会社	315	2.92
三井住友海上火災保険株式会社	250	2.32
東京海上日動火災保険株式会社	224	2.08
SCBHK AC LIECHTENSTEINISCHE LANDESBANK AG	168	1.56
極洋秋津会	167	1.55
中央魚類株式会社	139	1.29

所有者別株式数分布状況



株価及び出来高の推移



WEBサイトリニューアルのご案内

当社のコーポレートサイトを全面的にリニューアルし、2020年4月に公開いたしました。キョクヨーの事業概要やESGに関する情報、商品紹介、IR関連など、英語版を含めて最新の情報を掲載しております。



<https://www.kyokuyo.co.jp>

キョクヨー

